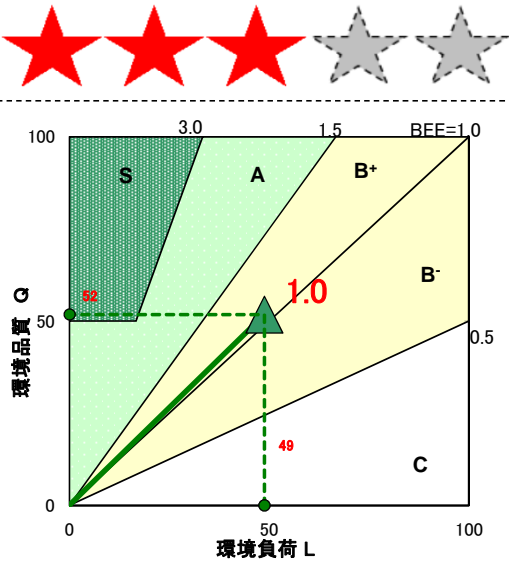


CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	オムロン阿蘇(株)物流倉庫新築工事	階数	地上2階		
建設地	阿蘇市一の宮町宮地字南油町4429・4438-1	構造	S造		
用途地域	都市計画区域外及び準都市計画区域外	平均居住人員	30人		
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	3,000時間/年		
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2012年11月 予定	評価の実施日	2012年6月22日		
敷地面積	59,720 m ²	作成者			
建築面積	4,233 m ²	確認日	2012年6月25日		
延床面積	5,235 m ²	確認者			

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



環境品質 G: 52
環境負荷 L: 49
BEE = 1.0

BEE = 1.0

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$


■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

100%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

75

■ 熊本県重点評価基準

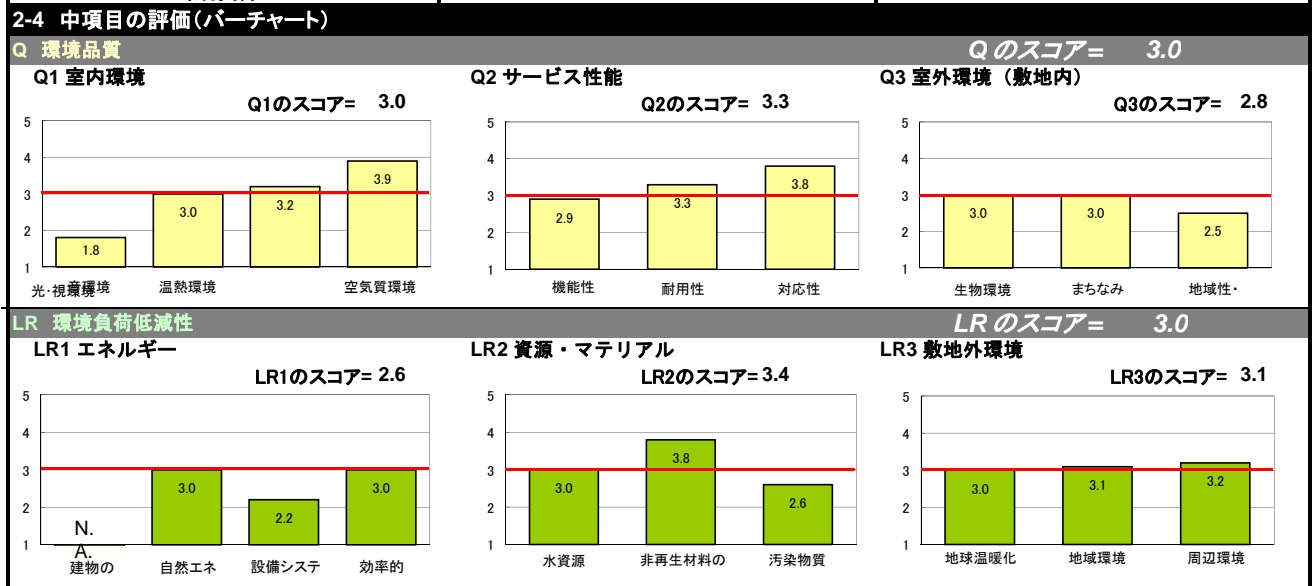
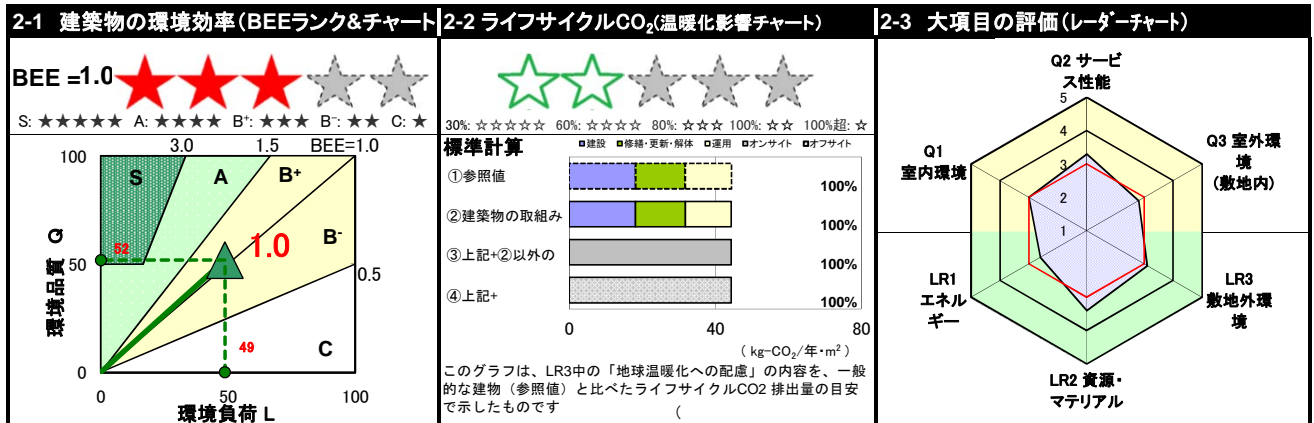
判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®熊本《新築》【評価結果】

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	オムロン阿蘇(株)物流倉庫新築工事	階数	地上2階		
建設地	阿蘇市一の宮町宮地字南油町4429・4438-1	構造	S造		
用途地域	都市計画区域外及び準都市計画区域外	平均居住人員	30人		
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	3,000時間/年		
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2012年11月 予定	評価の実施日	2012年6月22日		
敷地面積	59,720 m ²	作成者			
建築面積	4,233 m ²	確認日	2012年6月25日		
延床面積	5,235 m ²	確認者			



■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE[®] 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

- ・ シンプルな外観とし、既存工場棟と同じ色調としました。
- ・ 可能な限り樹木の伐採は避けて、移植を計画しました。

Q1 室内環境

- ・ 仕様建材はF☆☆☆☆製品とし、化学物質汚染被害を防止しております。

Q2 サービス性能

- ・ 設備機器類は省エネ製品を採用しております。

Q3 室外環境（敷地内）

- ・ 外壁色は白系を採用し、建物自体の温度上昇を抑制するようにしました。

LR1 エネルギー

- ・ サッシ部にはブラインドを設置し、庇の出を5m以上とるようにしました。

LR2 資源・マテリアル

- ・ 限りある資源を有効利用するように計画しています。

LR3 敷地外環境

- ・ 敷地境界よりも離れた位置に建物計画したことで、周辺地域への影響に配慮しました。

その他

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
オムロン阿蘇(株)物流倉庫新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.0
Q1 室内環境								3.0
1 音環境		1.8	0.15	-	-	-	-	1.8
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-	-	-	
1 室内騒音レベル	共用部: 50dB	3.0	1.00	-	-	-	-	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	-	-	
1.2 遮音		1.0	0.40	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能		1.0	0.60	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能		1.0	0.40	-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	
1.3 吸音		1.0	0.20	-	-	-	-	
2 温熱環境		3.0	0.35	-	-	-	-	3.0
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-	-	-	
1 室温		3.0	0.38	-	-	-	-	
2 負荷変動・遅延制御性		-	-	-	-	-	-	
3 外皮性能		3.0	0.25	-	-	-	-	
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	-	-	
6 種別制御		-	-	-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	-	-	-	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-	-	-	
3 光・視環境		3.2	0.25	-	-	-	-	3.2
3.1 昼光利用		4.2	0.30	-	-	-	-	
1 昼光率	事務所: 2.9%	5.0	0.60	-	-	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	-	-	-	-	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-	-	-	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	-	-	
2 昼光制御		3.0	1.00	-	-	-	-	
3 眩り込み対策		-	-	-	-	-	-	
3.3 照度		2.0	0.15	-	-	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-	-	-	
4 空気質環境		3.9	0.25	-	-	-	-	3.9
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-	-	-	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の採用	4.0	1.00	-	-	-	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	-	-	
4.2 換気		4.3	0.30	-	-	-	-	
1 換気量	1.4倍以上	5.0	0.33	-	-	-	-	
2 自然換気性能	0.084(1/15以上)	4.0	0.33	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮	排気口と6m以上離れている	4.0	0.33	-	-	-	-	
4 給気計画		-	-	-	-	-	-	
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	-	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	-	-	3.3
1 機能性		2.9	0.40	-	-	-	-	2.9
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-	-	-	
1 広さ・収納性	1人当たり9㎡以上	4.0	0.33	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		1.0	0.33	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.3	0.30	-	-	-	-	
1 広さ感・景観	天井高2.7m	4.0	0.33	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33	-	-	-	-	
3 内装計画		3.0	0.33	-	-	-	-	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.3	0.31	-	-	-	-	3.3
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.9	0.33	-	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	鋼板(30年)	5.0	0.23	-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	PB=12.5mm(20年)	5.0	0.09	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	B以上を使用	5.0	0.15	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	-	-	

2.3 適切な更新						
2.4 信頼性			3.2	0.19	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備	グリーン購入法便器、井水利用	4.0	0.20	-	-
3	電気設備		3.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.8	0.29	-	3.8
3.1 空間のゆとり			5.0	0.31	-	-
1	階高のゆとり	階高4.2m	5.0	0.60	-	-
2	空間の形状・自由さ	共用部:0.19、住居部:0.46	5.0	0.40	-	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	-	-
3.3 設備の更新性			3.6	0.38	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性	構造部を痛めることなく、修繕・更新できる	4.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性	仕上材を痛めることなく、更新・修繕できる。	5.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性	仕上材を痛めることなく、更新・修繕できる。	5.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	2.8
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	3.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	2.6
1 建物の熱負荷抑制			-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.29	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化			2.2	0.43	-	2.2
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		ERR=1.1%	2.0	-	-	-
集合住宅の評価			4.0	-	-	-
4 効率的運用			3.0	0.29	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	3.4
1 水資源保護			3.0	0.15	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.8	0.63	-	3.8
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.21	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	再生クラッシュラン、根切土再利用、便器	5.0	0.21	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み	軽天、軽鉄間仕切	5.0	0.25	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.6	0.22	-	2.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			2.5	0.68	-	-
1	消火剤		-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)		2.0	0.50	-	-
3	冷媒		3.0	0.50	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			3.0	0.33	-	3.0
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.6	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3	交通負荷抑制	駐車場、駐輪場確保、荷捌きスペース	5.0	0.33	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	0.33	-	-
2	振動		3.0	0.33	-	-
3	悪臭		3.0	0.33	-	-
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの過半を満足	5.0	0.70	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-

熊本県重点評価結果スコアシート 実施設計段階

建物名称 **オムロン阿蘇(株)物流倉庫新築工事**

■評価ソフト: CASBEE-Ncb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点		74.6
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				71.5	0.40	28.60
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.10			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.10			
Q1-3.2.2	昼光制御	3.0	0.10			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	0.0	0.00			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	2.2	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	5.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				60	0.20	12.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	1.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.29			
LR2-1.1	節水	3.0	0.43			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.29			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00			
④ 循環型社会の実現				95.2	0.20	19.04
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.9	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.8	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	5.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数